

# 「今こそ『継往開来』 ときめきと調和が共存する山口」

山口商工会議所 会頭 河野 康志



令和2年の新春にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様におかれましては本年もよい年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年は待ちに待った東京2020オリンピック・パラリンピック開催年です。海外からも大勢のお客様が日本を訪れ、全国各地に新しい風を呼び込んでくれるのではと、期待も大きく膨らんでいるところです。3年前に本職に選任され、あっという間に3年の任期が終わりました。この間、日本経済は欧米の外交や経済戦略に振り回される日々が続きました。国内は人口減問題がいよいよ現実となる中で、若手労働力不足と働き方改革、後継者問題、将来展望など多くの難題をかかえ、中小企業経営者にとって経営の舵取りはますます厳しくなっています。次の3年の任期は今まで以上に気を引き締めて参る所存です。

山口市の人口は4年前の国勢調査では人口増となりました。現在は山口県全体の人口が急減する中、山口市は減少に転じたものの微減に留まっています。これは旧郡部での大きな人口減を打ち消すぐらい、山口、小郡の両都市核への人口流入が続いているからです。平成29年3月末にスタートした県央7市町による連携中枢都市圏協約に基づく様々な共同事業が動き始めました。隣接する自治体がお互いを補完し合い、都市機能の集積と公共投資の削減で予算削減が実現出来れば、新たな雇用やビジネスチャンスの創出により多くの予算を振り向ける事も可能になるでしょう。その一つが『山口ゆめ回廊博覧会』事業です。東京オリパラに合わせ、本年にプレ博覧会を、来年に博覧会本番を開催する計画です。わが商工会議所もしっかり応援したいと思っています。

また、同じ7市町管内の11の商工会議所、商工会が事業承継に関する連携協定を締結しました。中小企業の後継者不足が深刻化する中、「廃業」という最終選択をする前に、同業あるいは異業種との事業連携や合併、後継者探しなど、事業継続の新しい選択肢を提供し、中小企業を様々な角度から支援するというものです。廃業を選択されるケースが圧倒的に多い中、継続の可能性を少しでも探って頂ける支援が出来る様、連携策を進めている所です。

さて、来年4月にはJR新山口駅北地区の産業交流拠点施設がオープンします。本所小郡支所はオープンと同時に同施設内に移転します。支所人数も5名程度へと増員し、ここを拠点に南部地域の皆様への支援を拡充したいと考えています。さらに2千人収容のメッセ施設がオープンします。この施設をどれだけ活用出来るかが、新山口駅TP整備事業の命運を握るといっても過言ではないでしょう。メッセを核とし周辺ホテルや湯田温泉地区のホテル旅館と連携した様々な催事、学会などのMICE誘致を進め、賑わいづくり、企業誘致、新産業

育成など、会議所としてやるべき事をしっかりと進めたいと思います。小郡地区は古くから交通の要衝として栄えてきましたが、この度の新山口TP整備事業により、その利便性は県内でも突出する事になるでしょう。駅周辺のマンションが火付け役となった人口流入は今でも続いており、土地を求める動きは嘉川方面にも広がっていると聞きます。小郡地区の人口は現在、25万人ですが、3万人突破も夢では無いかもしれません。小さくてもキラリと光る新産業の育成・ベンチャー精神あふれる企業の集積をすすめ、活発な経済圏の形成へと繋げられる様、中小企業の育成や企業誘致に力を注いでいきたいと思っています。

一方で、山口都市核の中でも商店街を含む中心市街地エリアは、これからの50年を見越した都市機能の見直し、新たな都市計画が必要な時期に来ていると思います。山口市中心商店街は平成の時代に郊外大型店の出店攻勢により買い物客を大きく奪われ、さらに近年におけるネットショッピングの進展で、店舗維持が出来ず閉店に追い込まれるケースが続出しています。商店街はモノを売るという旧来のビジネスモデルだけでは厳しいのかもしれませんが。山口の商店街から少し周囲に足を伸ばせば、そこには市役所などの行政機関だけではなく、美術館、図書館、市民館、歴史的建造物等々、時間を消費する施設が多く、充実しています。大内氏から始まる長い歴史が育んだ美しい街の景観と佇まいが、生活に彩りを与えてくれています。人口流入も小郡以上に多く、マンションだけで無く戸建住居も年々増加し、コンパクトで住みよい街の形が整いつつあります。

そんな中、山口市役所の建て替え計画が進められる事になりました。今の中心部のカタチは約半世紀前にほぼ完成しました。その後、国道が県道になり、交通の流れは大きく変わりました。商店街の役割もコト消費型から時間消費型への転換が迫られています。市役所の建て替えを機に老朽化している市民館の建て替えや、歩行者に優しい県道の整備、自動運転をにらんだ交通体系の見直し等、今まで以上にお年寄りや子どもも安心して暮らせる街、そういう中心市街地の数十年先の街のカタチを提案したいと思っています。

3年前に山口商工会議所のスローガンを「継往開来(けいおうかいらい)」と致しました。これは“先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く”ことを意味しています。小郡、山口両都市核がお互いの役割を認識し、協力しあってこそ街全体の発展があります。街のアイデンティティーを維持し、誇りを持って山口に住み続ける事が出来る社会、そんな社会の実現を目指して本年も前に向かって進みたいと思います。

会員皆様のご繁栄とご多幸を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。